

## 教校部「仏教学（天台）」藤澤信照

### 【講義の概要】

親鸞聖人は9歳から29歳までの20年間、比叡山で学問修行された。その様子について『御伝鈔』上、第一段には「しばしば南岳・天台の玄風を訪ひて、ひろく三観仏乗の理を達し、とこしなへに楞嚴横川の余流を湛へて、ふかく四教円融の義にあきらかなり」と記されているように、空・仮・中の三観、藏・通・別・円の四教を説く天台教義に通達された。その上で、『法華経』に説かれた「一乗教」の究極は『大経』の第十八願にあり、これを「誓願一仏乗」として昇華していかれたのが『教行信証』に顕された「浄土真宗」という法義である。そのような視点から『法華経』および『法華経』を仏教の究極の教えとする天台教義を学ぶ意義は大きい。

天台教義と一口に言っても、中国天台と日本天台とでは、その教義体系や実践内容は異なっているが、この講義では特に『天台四教儀』をテキストとして、天台大師智顛が体系化された天台教義について学んでいきたい。いま、その教義を概略すれば。五時八教判という教判（教相判釈）を立て、釈尊の説かれた一代仏教を、それぞれの経典が説かれた時代によって、華嚴時、鹿苑時、方等時、般若時、法華・涅槃時の五時に分け、また説かれた教えの内容から藏教、通教、別教、円教という四教（化法の四教）と、あるいはまた説きぶりによって頓教、漸教、秘密、不定獲という四教（化儀の教）、に分け、『法華経』に説かれた一乗（すべてのものが仏になれると説く教え）こそが円教、すなわち釈尊が説かれた教えの究極であるとするのである。

講義の糸口として、かつてNHKで4回にわたって放送された「100分de名著」の植木雅俊著『法華経 誰でもブツダになれる』をテキストに、当時の放送のアーカイブを見ながら、『法華経』がどのようなことを説いた経典であるかを学び、それを踏まえて、『天台四教儀』の原文を少しずつ講読しながら、天台の教義について一年間にわたって、学生の皆さんとともに学んでいきたいと思う。以下に、講義で用いるテキストと、参考図書を挙げておいたので、この講義をもとに、天台教義について、さらに学びを深めていただきたい。

### 【テキスト】

植木雅俊著『法華経 誰でもブツダになれる』NHK100分で名著  
昭和校訂『天台四教儀』（山喜房佛書林）

## 【参考図書】

稲葉円成著『天台四教儀新釈』（法藏館）

池田魯參著『現代語訳 天台四教儀』（山喜房佛書林）、他

## 【自己紹介】

藤澤 信照（ふじさわ しんしょう）

1958（昭和 33）年、鹿児島県川内市（現、薩摩川内市）生まれ。

鹿児島大学理学部卒業。行信仏教学院ならびに行信教校卒業後、滋賀県東近江市浄光寺に入寺。その後、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。

現在、行信教校講師、元布教使課程専任講師、滋賀県東近江市浄光寺住職。

## 著書

『親によばれてー浄光寺報法話集ー』

仏教讃歌「本願力のめぐみゆえ」親鸞聖人『正信偈』意識、解説と味わい

『『教行信証』からひもとく浄土真宗の教え』（法藏館）

共著『大きな字で読みやすい 浄土真宗やわらか法話 2』

共著 2018（平成 30）年真宗教団連合法語カレンダー『月々のことば』

論文 『行信学報』などに、多くの研究論文を発表

## 【学生さんへのメッセージ】

行信教校には昭和 56 年に入学し、滋賀県のお寺に入寺するまで、5 年半ほど在籍し、寮生活をしていました。講師ではありますが、皆さん方の先輩でもあります。寮生活、学校生活についてのこと、勉強方法について、気軽にたずねてもらったらうれしいです。

滋賀県のお寺は公共交通機関が不便なところにあるので、毎回、車で約 1 時間半かけて学校に通っています。お寺のあるあたりは、大阪の町中と違って、自然がいっぱいのところです。

機会があったら、ぜひ遊びに来てください。

趣味は音楽。クラシックギター演奏。地域のコーラスの指導もしています。